

銘柄米生産情報

会津若松市・磐梯町・猪苗代町
JA会津よつば（あいづ地区）・福島県農業共済組合会津支所
全国農業協同組合連合会福島県本部・福島県会津農林事務所農業振興普及部

東北地方1か月予報 <仙台管区气象台 R7.7.3 発表>

【気温】東北地方	10	10	80
【降水量】東北地方	50	30	20
【日照時間】東北地方	10	30	60

凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)
期間の前半は、気温がかなり高い状態が続く見込みです。天候は期間の前半は、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。平均気温は高い確率80%です。

【幼穂形成期～出穂期の水田管理の重点ポイント】

- 1 高温障害対策（葉色低下に対する追肥、出穂後の水管理）
- 2 斑点米カメムシ類防除対策（畦畔等の管理）
- 3 水稻の生育ステージに応じた水管理
・中干しの適正実施 ・中干し後の水管理 ・出穂前後の水管理
- 4 水稻の生育状況に応じた肥培管理（穂肥）

熱中症に注意
ですぞ！



高温障害対策

- ・出穂前の葉色の低下に注意！ 葉色がさめている場合は、追肥を行いましょ！
（詳細はJA、農林事務所等にお聞き下さい）
- ・出穂してから、20日間の気温が高いと白未熟粒が多くなります。
出穂後の水管理は、浅く水を入れ足跡に水がたまる程度になったら、また入水を繰り返す飽水管理で!!



飽水管理の目安
写真：新潟県HPより

斑点米カメムシ類防除対策

（今年も発生が多いと予想されています！）

- ・畦畔の草刈りは出穂10日前までに行います。それ以降の草刈りはカメムシを本田に追込む可能性があるため、出穂間際～8月いっぱいの草刈りは控えましょ。

【農薬による防除例】

- ・粉剤・液剤（散布剤）による防除
1回目：乳熟期（出穂期の7～10日後）、2回目：その7日後に散布してください。
- ・粒剤による防除
穂揃期～乳熟期（出穂期の5～10日後）に湛水状態で散布し、その後も発生が多い場合は、散布剤により追加防除を行いましょ。

表1 主なカメムシ防除薬剤の例

薬剤名	希釈倍数・使用量	使用時期
キラップ粉剤DL	3～4kg/10a	収穫14日前まで
スタークル液剤10	1000倍 60～150L/10a	収穫7日前まで
スタークル粒剤	3kg/10a	収穫7日前まで

- ※ 各品種の出穂期については、裏面の表2を参考としてください。
- ※ 常発地や比較的出穂の早い品種は特に注意し、計画的な防除を行いましょ。
- ※ 農薬を使用する際は、最新の登録情報を確認し、使用基準を遵守してください。
- ※ 航空防除（無人ヘリ防除）を行う場合は、必ず計画書と実績書を会津農林事務所農業振興普及部へ提出してください。

水稻の生育ステージに応じた水管理

- ・ 中干しは、出穂30日前まで（幼穂ができはじめる頃）には終わらせましょう。
- ・ 中干しが終わったら、間断かんがいを行いましょう。
- ・ 穂ばらみ期から開花期は湛水管理（花水）を行いましょう。
※この時期に水分が不足すると、開花や受精に障害が起きやすくなります。

水稻の生育状況に応じた肥培管理（穂肥）

- ・ 穂肥は、生育状況や葉色に応じて散布量を加減してください。散布時期はコシヒカリが出穂15日前頃、その他の品種が出穂20～25日前頃となります。幼穂長を確認して時期を決めましょう。表2を目安に行ってください。
- ・ 基肥一発肥料を使用している場合は、基本的に穂肥は不要です。
ただし、高温等により肥料の溶出が早まり、登熟後半の肥切れが心配される場合は、適宜追肥をしてください。

表2 各品種の生育ステージと穂肥の目安

地帯別	品種	出穂期 (目安)	幼穂形成期	穂肥時期		葉色の目安 (カースケール値)	窒素成分量 (kg/10a)
平坦部	ひとめぼれ	7/30	7/5	出穂20～	7/5～10	4.0未満	1.5～2
	天のつぶ	7/31	7/6	25日前	7/6～11		2
	コシヒカリ	8/6	7/12	出穂15日前	7/22頃	3.5未満	1～2
山間 山沿い	あきたこまち	7/31	7/6	出穂20～ 25日前	7/6～11	4.0未満	1.5～2
	里山のつぶ	8/2	7/8		7/8～13		2
	ひとめぼれ	8/6	7/12		7/12～17		1.5～2
	天のつぶ	8/9	7/15		7/15～20		2

いもち病防除対策

- ・ 散布剤による穂いもちの防除適期は穂ばらみ末期と穂揃い期です。
- ・ いもち病に登録のある育苗箱施用剤を施用した場合でも、7月中旬頃から薬剤の効果次第に低下します。ほ場の病害発生状況をよく確認しましょう。
- ・ 葉いもちの発生が認められた場合は、すぐに散布剤による防除を行ってください。

表3 いもち病（穂いもち）の防除薬剤の例

薬剤名	使用時期	使用量
コラトップ粒剤5	穂いもちに対しては出穂30日前～5日前まで	3～4 kg/10a
フジワン粒剤	穂いもちに対しては出穂10～30日前（但し、収穫30日前まで）	3～5 kg/10a
ブラシン粉剤DL	収穫7日前まで	3～4 kg/10a



**さまざまなリスクに備え、収入保険に加入しましょう！
青色申告を行っている農業経営者が対象です**